

# あけなほ

2011  
No. 80

## CONTENTS

特集 東日本大震災から学ぶもの・・・ 2

研修会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

ブロック通信／部会・委員会通信・・・・・・・・ 5

会員紹介のコーナー・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・・・ 8



西宮神社十日えびす(平成24年1月9・10・11日)

1年の無事を感謝し、五穀豊穰、大漁、あるいは商売繁盛を祈願する祭礼。最初の参拝を競って約200メートルの参道を競走する開門神事福男選びは有名。

# 東日本大震災から学ぶもの

去る2011年3月11日、三陸沖を震源に東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)が発生しました。

本会では今後支援に向けての現状把握のため、兵庫県のカウンタートパートとなる宮城県へ視察に行きました。

仙台市では東北ブロック老人福祉施設協議会へ本会会員施設から寄せられた義援金(追加分と本会の規定に基づくもの)を届け

るとともに、宮城県老人福祉施設協会事務局を訪問。その後気仙沼市、名取市、岩沼市などの被災した特養3施設を訪問し、当時の様子などのお話を伺いました。

今後本会ではこの視察結果を活かし、青年部会を中心に大規模災害における緊急対応マニュアルを作成する予定です。

今回は被災地レポートとして、現地の様子(視察時点)をお伝えします。



## 行程

- 7月25日 東北ブロック老人福祉施設協議会へ義援金贈呈  
宮城県老人福祉施設協会事務局長と懇談
- 7月26日 気仙沼市内視察  
ボランティアセンター、避難所、仮設住宅等  
特養キングス・タウン
- 7月27日 名取市 特養うらやす  
岩沼市 特養赤井江マリンホーム

## 訪問者

- 本会副会長 谷 亨二
- 青年部会 三木 啓康
- 青年部会 森本 重治
- 青年部会 澤村 安由里

## 1日目

### 宮城県老人福祉事業協会

佐藤事務局長より、宮城県内の福祉施設の被災状況についてお話を伺う。

宮城県内の被災状況、全壊38施設、特養10、養護1、老健2、ケアハウス5、グループホーム20(一部損壊160施設)特養69、養護4、老健47、ケアハウス20、グループホーム20)合計198施設 被害総額120億円を超えるとのこと。

全壊の入所施設には、復興義援金が支給され、福祉医療機構も無利子で借り入れをできるように配慮があり、建て替えという方向性も見えてはくるが、被災した同じ場所には建築許可がおりず、違う土地を新たに用意し



## 2日目

### 気仙沼市 ボランティアセンター及び市内の被災地域

なければならぬという課題がある。同一法人内の他の事業に被害がなく収入を確保できる法人等は何とか再建の見込みもたつが、単独サービスセンターや訪問系事業所など1法人1事業所など小規模法人のなかには、再建も困難な状況で、すでに廃業された法人もあるとのこと。

気仙沼市は、71,000人の人口のうち、視察時点では、死亡者995人、行方不明419人、住宅被害は全壊・半壊合わせると12,414棟(9,500世帯)。気仙沼市社会福祉協議会の建物も被災し、老人福祉センター内に仮事務所と災害ボランティアセンターを設置していた。気

仙沼市災害ボランティアセンターには、兵庫県社協から派遣されている職員が常駐しており、当日、被災地域を案内してくれた。

ちなみに気仙沼市内の介護保険事業所は、津波被害のあった街中に集中しており、約8割が被災し、特養が1箇所流失、老健が1箇所流失(利用者73名死亡)、ケアハウス1箇所が流失し(自宅などに帰される)グループホーム7ユニット(定員にして63名分)が流失、訪問・通所系の被害も甚大だったとのこと。

### 避難所・仮設住宅

漁港から数キロ離れた高台の中学校のグラウンドに建設された仮設住宅を視察。同じ敷地内の体育館や教室にはまだ仮設住宅に移れない人々が200人ほど避難所生活をしている。津波被害のあった土地以外に平地が少ないため、仮設住宅を建てる場所の確保が難しく、建設のスピードは遅い。

また、仮設住宅が東北の寒さや積雪にどれくらい対応できるかが今後の課題でもあるとのこと。

なること、地域の高齢者が避難し訪問系・通所系の利用者が減り、そちらの配属職員が応援にまわること、震災により解雇された他の法人職員の求職者を雇用する必要もあることなどの理由から受入れはある時点までとした。

物資については、現在は流通も回復したことにより充足し、支援物資の置き場所を工面している状況。東京都が物品リストを作成し、希望を記入すると必要な物資を利用する量にあわせて定期的に配送する「福祉物資輸送システム」を開始したことにより在庫保管の課題もクリアされていた。しかし、支援物資は大変助かっているが、支援物資をいだけることにより、地元業者での購入がされにくい状況になり、地元業者の復興支援から遠ざかってしまう現状がある。」との悩みも伺えた。

物やマンパワー(労働力)以外に、何か支援できることがありますか?とお尋ねすると、「話を聞きに来てください。」との答え。「人に話すことによって自分自身が整理できるので、来ていただいで話を聞いていただくことはちょっと迷惑ではない。」とのこと。沢山の遺体を目の当た

## 3日目

### 名取市 特養うらやす

海岸から近く、津波被害を受け、全壊した2つの施設を訪問

りにし、また震災後、元気だった身近な人が何人も心労により、急死した情報を耳にし、「自分もある日、急に逝ってしまったかもしれない。」という不安が最近までずっとあったとも話してくれた。災害によるストレス、責任ある立場としての緊張感・使命感、身近な方々を一度に大勢失った喪失感などを吐露することによって癒される部分と、これまでの状況を人に話すために、言葉や気持ちや思いを整理することにより、自分を客観視でき、前向きになれるのかもしれない。それは、被災された方々皆に共通することであり、「話を聞く」ということが、これから我々のできることのひとつかもしれないと感じた。

特養利用者50名中36名及び職員2名が死亡。津波警報が発令時、隣接するケアハウス3階に避難していたが、警察に1.3km地点にある指定避難所の中学校に避難するよう指示があったため、避難

## 復興への提言(記念講演会を聴講して)

11月1日、メルパルクホール(大阪市)に於いて、河田恵昭先生 関西大学社会安全学部教授、東日本大震災復興構想会議委員、日本災害情報学会会長(他)を講師に迎え、「東日本大震災時の災害医療と課題」をテーマに社会医療法人愛仁会主催の記念講演があった。

この記念講演で特に印象的であったのは、復興構想会議メンバーの河田先生による復興への提言として「悲鳴(悲惨)のなかの希望」とする「減災」理念(今後の自然災害への向き合い方として被害を最小限に抑えるための先行投資等)を打ち出したことである。

また、災害医療に於けるDMAT(災害時派遣医療チーム)の活動内容について具体的な説明があった。サーベイランスとその救援医療、ド

誘導したが、中学校付近では、地域の方々の避難により交通渋滞が発生していたため、避難誘導途中で津波に襲われ、利用者36名と職員2名が被災した。

### 岩沼市 特養赤井江マリンホーム



津波警報発令時、施設長は不在であったため、事務長判断にて、指定避難所ではないが車で5分程度の仙台北空港へ避難誘導を開始。空港では空港職員・地域住民の協力も得られ、比較的スムーズに利用者、職員共に全員避難完了し死亡者ゼロであった。この施設では1年前のチリ沖地震の後、津波に関する対応マニュアルを行政と作成。その時の記憶が利用者及び職員のスムーズな避難、誘導、必要物品の持ち出し等に繋がったと思われる。

私たちに今・これからできる支援は何であろうか?ひとつは、関心をもちつつ

誘導したが、中学校付近では、地域の方々の避難により交通渋滞が発生していたため、避難誘導途中で津波に襲われ、利用者36名と職員2名が被災した。

津波により亡くなられた多くの方々、の冥福を祈るとともに、被災者の方々、一日も早い復興されることをお祈りいたします。

クターヘリの活動(透析、入院患者の避難等)、情報通信網の確保と災害医療にかかる共有化など様々な活動を展開された。

日本の地殻構造からみると、北(東北沖地震帯他)と南(南海地震帯、東南海地震帯)からのぶつかり合う圧力により、マグニチュード8以上の大震災が何時どこで起こるか予測がつかず避けられないことは歴史上から見ても必至である。

また、災害に対し高齢者、入院患者、何らかの障害を持っておられる方など社会的弱者に対する災害医療について具体的に教示され示唆ある講演であった。

編集委員: 武内 尚明



### 職員間の連携

職員間の連携をテーマにした養護部会職員研修会が開催され、生活相談員と主任支援員をはじめ42名の出席がありました。

講師の平岡さんは、奈良県にある養護老人ホーム聖ヨゼフホームで介護職員・主任生活相談員・居宅ケアマネ・施設長を歴任されており、それぞれの角度から養護を語られ、テーマにそったお話はとても分かりやすかったです。

生活支援ニーズの多様化と重度化の下で、入所者の自立した生活を支援するための職員相互の情報共有と協力のあり方についてお話いただきました。

情報共有にとつて大事なことは正確に伝えるという努力ですが、「伝えたはず」「伝わったはず」が、実は先入観で間違つて情報を受け取っ



編集委員：木村雄一



てしまう場合があることを、冒頭に出されたクイズで実感しました。「著名な大病院の外科医は男性である」という先入観が、受講者の多くにもあつたようです。

会議では異なる意見が対立し、膠着状態になることもありましたが、「答えを出す場と考えず、方向性を確認する場としたら良い」という指摘は、確かに実践的だと感じました。

また、自身の仕事の大変さだけでなく、入所者への処遇目標を真ん中に置き、他の職種・職員の努力を労う姿勢が、連携には必要であると強調されていました。

## ブロック通信

### 【阪神ブロック】

●今後の予定  
12月5日 相談員部会研修「相談員へのスーパービジョン」燃え尽きを防ぐために  
講師：元梅花女子大准教授 植田寿之氏  
場所：芦屋市福祉センター

2月18日 看護職部会研修「特養の看護のあり方と役割」  
講師：兵庫県看護協会 小田美紀子氏  
場所：特別養護老人ホームメヌエット 東館

### 【東播磨ブロック】

10月28日、29日グリーンピア三木において、介護老人保健施設「鶴舞乃城」看介護部長高口光子氏を講師に招き、「職員育成」新人教育とリーダー育成を取り組む為に」と題して研修会を開催しました。

●今後の予定  
平成24年2月 施設長研修「介護報酬改定について」  
講師：株式会社エーデル研究所 福祉経営部部长 小林雄二郎氏

### 【姫路ブロック】

●今後の予定  
12月 施設長研修会  
場所：ホテル日航姫路  
1月 デイ研修会  
3月 ケアハウス・養護研修会

### 【西播磨ブロック】

11月1日、前年度に引き続き第2回西播磨ブロック福祉施設職員による「ボウリング交流会」が開催されました。今回も参加職員の和やかで和気あいあいとした中、相互の交流と親睦を図ることができ、大いに盛り上がりました。

●今後の予定  
1月中 ターミナル研修  
2月中 ケアプラン研修

### 【但馬ブロック】

11月6日に但馬長寿の郷にて但馬の健康と福祉を考える集い「認知症セミナー」を開催しました。関西福祉科学大学准教授村尚子氏による「正しく知ろう！認知症のこと」認知症高齢者に尊敬と共感を持ち相手を受け入れるコミュニケーションとは」を学びました。

### 【丹波ブロック】

11月24日(木)午後6時半から、春日福祉センター「ハートフルかすが」で、講師にあそびの工房もくもく屋事務局長 田川雅規氏を迎え、「あそびの心を磨く★明日誰かに試したくなるレクリエーション」と題してデイサービス部会研修会を開催しました。

### 【淡路ブロック】

11月30日に給食関係研修会が津名ハイッで開催されました。  
●今後の予定  
1月 リスクマネジメント研修  
日時未定 事務職員研修

## 部会・委員会通信

### 研修委員会

2月末に施設長1泊研修会を検討中。詳細が決まりしだいお知らせいたします。ご参加お待ちしております。

### 養護部会

1月12日施設長研修会を開催いたします。

### 軽費・ケアハウス部会

取組み事例集掲載「会員ケアハウス一覧～取組事例集添付～」を作成中。12月開催、施設長研修会にて配布予定。

### デイサービス部会

2月9日に「デイサービスセンターの今後の運営・経営の展望」と題し、エイデル研究所小林雄二郎氏を迎えて開催いたします。

### L S A活動強化事業委員会

1月に「生活保護制度の基礎知識」と題し第4回L S A専門相談会を、3月中旬に「大規模災害への備えとL S A事業の関わり」と題して第2回L S A研修会を開催します。

### 介護保険推進事業

次期介護報酬改定に向けての要望及び提言を厚生労働省など関係機関に提出。(詳細は、かけはし79号号外に掲載)

### サービス評価事業

平成23年度のサービス評価事業を実施中。(15施設)

### 拘束なき介護にむけての検討会議

拘束なき介護にむけてのシンポジウムを「高齢者虐待」をテーマに2月10日に開催いたします。

### 調査研究委員会

「マンパワーの確保と定着率の調査」を分析中。調査結果は今年度中に各施設へ公表いたします。ご協力ありがとうございました。

### 編集委員会

“こんな取組みはじめました”“こんなこと施設でしています”など、かけはし紙面に記事をお寄せください。

### ケアプランリーダー養成・派遣事業

1月27日にケアプラン研修会(ICF概念編)を開催いたします。

### 口腔ケア研修会

口腔ケアをテーマにした職員研修会が開催され、介護職員・看護師・管理栄養士など約80名の参加がありました。

講師の岸本裕充氏は兵庫医科大学口腔外科学講座准教授で、口腔ケア関連の著書も多数執筆されています。

なぜ口腔ケアが必要なのか、適切な口腔ケアとはどのようなものかに始まり、岸本氏おすすめの口腔用品の紹介、義歯使用の注意点、歯科医や歯科衛生士との協力体制、地震などの災害時に留意すべきポイント等を学びました。

高齢者に多くみられる誤嚥には嚥下障害によって食事や水分摂取中に起こるもの他に、就寝中にむせの症状がなくても唾液が気管に入りこんでおこる誤嚥(不顕性誤嚥)があることを学びました。

注目すべき点は肺炎の既往歴がある高齢者の実に70%が不顕性誤嚥を起こしていること調査で判明したことです。そのことを踏まえると肺炎の既往歴がある高齢者ほど重点的に口腔ケアを行う必要がある



編集委員：岡泰司

といえます。仮に不顕性誤嚥を起こしていても、細菌が少ないきれいな唾液ならば免疫機能が失われず肺炎を発症しにくいとの説明を受けました。口腔ケアにひと手間かけて口の潤いを保つことが、誤嚥性肺炎の予防に効果的だと理解しました。

健康維持は「健口」から。これは岸本氏が紹介された言葉です。口腔のトラブルは起きてからでは多くの時間と労力を要します。普段の食生活や生活習慣を見直す機会を与えて頂いた研修会でした。



軽費老人ホーム



デイサービス



養護老人ホーム



特別養護老人ホーム



## 安倉 デイサービスセンター

阪神ブロック



安倉デイサービスセンターは、平成元年4月に宝塚市内で初めてできたデイサービスセンターです。住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるように、一年365日年中無休でサービスを提供させていただき、地域の人の出合いの場として運営しております。

一日約30名のご利用者が来られていますが、基本方針として「利用者の方々の主体性や個性を引き出した自立支援のケア」を念頭に置き、グループケアを実践しております。各グループの担当職員がニーズに即した深いケアを目指しております。

また、地域のボランティアの皆さまによる心のこもった喫茶ルームを開設しております。その他にも音楽やマッサージ等の多様なボランティアの皆さまにもご協力をいただき、ご利用者の方々に対して充実したお時間を提供できるように、地域の方々と一緒になって日々より良いサービスを目指して業務に励んでおります。

宝塚市社会福祉協議会  
安倉デイサービスセンター

定員数 45名  
〒665-0825 宝塚市安倉西2-1-2  
TEL 0797-81-2030  
FAX 0797-81-5599  
akura-day@nifty.com  
施設長 谷口 英嗣

併設事業  
居宅介護支援  
訪問介護  
生活介護



## ケアハウス 青山苑

姫路ブロック



ケアハウス青山苑は姫路市西部の自然公園に囲まれた好環境の中に立地しています。

平成9年6月8日に開設し今年で14年を迎えることができました。

14年の歴史において、これまで施設としても様々な課題を克服しながら今日に至りました。

当時、市町合併前の姫路市においては特別養護老人ホームが12施設、併設のケアハウスが6施設、そしてケアハウス青山苑は初めて単独のケアハウスとして注目されました。

平成12年介護保険制度の開始と同時に訪問介護事業を併設し、ケアハウスの入居者や在宅の利用者の生活支援のお手伝いをさせて頂いております。また、平成21年には法人合併により宝寿会の姉妹施設として新たな出発となりました。

現在は、宝寿会の理念「思いやり、安心安全、やすらぎ」を基本方針とし、自立されている方から、介護の必要な方まで幅広く利用者の皆様のニーズに応えられる施設作りを目指し、全職員一丸となって取り組んでいます。

社会福祉法人 宝寿会  
ケアハウス青山苑

定員数 100名  
〒671-2222 姫路市青山1470-141  
TEL 079-267-7111  
FAX 079-267-7112  
http://www.aoyamaen.jp/  
施設長 古市 明彦

併設事業 訪問介護事業所  
姉妹事業 特別養護老人ホーム  
グループホーム



## 特別養護老人ホーム ちくさの郷

西播磨ブロック



ちくさの郷は、平成2年9月に開設しました。施設は、清流千種川の上流、兵庫県千種町に所在し、豊かな自然が織りなす四季折々の風情が、私たちの生活に潤いと安らぎを与えてくれます。

私たちは、創始者の遺志「水がきれい、空気がきれい、尋常が豊かな我がふるさとへの恩返し」の下、5つのおもてなしの心、「清潔」「笑顔」「挨拶」「お洒落」「安全・安心」を基本とした介護サービスの提供に努めています。

また、日々の生活においては地域との繋がりを大切にし、ボランティアによる習字・生け花等のクラブ活動、民謡会・コーラスグループ・カラオケ同好会等の訪問、そして、地元中学校や高校とも定期的に交流を図っています。さらに、外出行事として買い物・ハイキング・外食会・日帰り旅行などを毎年行っている他、今秋は小・中学校の運動会や町敬老会にも出かけていき、ご利用者様に喜んでいただきました。

千種町では高齢化率が30%を超え、益々介護サービスのニーズが高まっています。私たちは初心を忘れることなく、今後も地域に根差した施設運営を心がけていきたいと思っております。

社会福祉法人 千種会  
特別養護老人ホーム ちくさの郷

定員数 60名  
〒671-3231 兵庫県千種町河呂189-4  
TEL 0790-76-2500  
FAX 0790-76-3345  
chikusa@chikusakai.jp  
http://www.chikusakai.or.jp  
施設長 山田 基浩

併設事業  
短期入所生活介護事業  
通所介護事業



## 養護老人ホーム かるべの郷あじさい

但馬ブロック



社会福祉法人 かるべの郷福祉会は「高齢者や障害のある方が生き甲斐のある人生を送ることを支援する」を当法人の社是とし、地域貢献に取り組んでいます。

養護老人ホームかるべの郷あじさいでは、買い物や日帰り外出、温泉旅行、畑仕事、地域行事の参加など個別や少人数での施設外の機会を積極的に増やします。

また、中庭でのバーベキューや花火大会、前庭でのそうめん流しなど施設敷地内での行事も多く取り入れ、外出を拒まれる方にも外の雰囲気を楽しんでいただけるよう配慮し、さまざまな楽しみみの機会を設けることで生き甲斐を見出しただけでなく努力しています。

今後もお客様への感謝の気持ちと言葉を忘れず、入所して良かったと思っ頂けるようなかるべの郷を目指します。

社会福祉法人 かるべの郷福祉会  
養護老人ホーム かるべの郷あじさい

定員数 50名  
〒667-0102 養父市十二所871番地  
TEL 079-664-0002  
FAX 079-664-1351  
info@karubenosato.co  
施設長 進藤 龍善

併設事業  
特別養護老人ホーム 短期入所生活介護事業所  
居宅介護支援事業所 通所介護事業所  
訪問介護事業所

## EVENT INFORMATION

拘束なき介護にむけての  
シンポジウムを開催します

今年度のテーマは、  
「高齢者虐待について共に考える～高齢者施設  
において虐待が起りうるとき～」と題し、下記  
日程にて公開シンポジウムを開催します。

日時 平成24年2月10日(金) 13:30～16:30

場所 兵庫県民会館 11F パルテホール

内容 ●基調講演  
「高齢者施設において高齢者虐待が起  
るとき、その対応策を考えるうえで」  
特別養護老人ホームフィオーレ南海  
施設長 柴尾慶次氏  
●本委員会からの発信…高齢者虐待  
に関するアンケート調査から

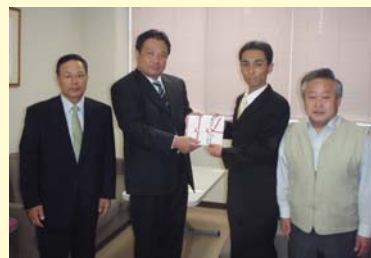
参加対象 本会会員事業所・福祉関係者…  
興味のある方はどなたでも

参加費無料 ※12月中旬より本会ホームページに  
開催要項を掲載いたします。

お問い合わせ先  
社団法人兵庫県老人福祉事業協会  
小島 078-291-6822

## 台風12号被害施設への義援金の贈呈

去る9月の台風  
12号による記録的  
豪雨で、近畿地方  
では和歌山県、奈  
良県、兵庫県で老人  
福祉施設に被害が  
発生しました。今回  
は、近畿ブロックの



粟生逢花苑へ義援金贈呈

呼びかけで義援金を募集したところ、本県では会員から  
184万円が寄せられ、本会内規に基づく義援金7.5万  
円と併せて近畿ブロックに送っていました。

このたび、本県分の義援金の配分(197万余円)があり、  
12月1日、床上浸水し被害の大きかった「粟生逢花  
苑」(本会内規に基づく見舞金5万円も併せて)と「のじ



のじぎくの里へ義援金贈呈

ぎくの里」の2施設に、  
石田会長と大西・東播  
磨ブロック長が訪問し  
て、施設長にお渡しし  
ました。

会員の皆様のご厚  
情に心から感謝いたし  
ます。

## ●●●● 会員事業所のみなさま ●●●●

次号(81号)では、会員事業所のボランティア受け入れ状況、  
ボランティア継続のための工夫など「ボランティアに関するア  
ンケート」を実施し、その集計・分析結果と、ボランティアと  
共に利用者の生活支援を行っている施設を取材し、特集として  
まとめる予定です。

アンケートへの回答及び取材へのご協力をお願いいたします。  
回答締切：平成23年12月25日(日)

## 行事予定

12/12(月) デイ部会リーダー養成研修会

12/13(火) 軽費・ケアハウス部会施設長研修会

12/23(金)～24(土) 特別養護老人ホームにおける看護職員と  
介護職員によるケア連携協働のための研修会

1/12(木) 養護部会施設長研修会

1/26(木)～27(金) 近老協 施設長研修会(滋賀)

2/9(木) デイ部会施設長研修会

## | 編 | 集 | 後 | 記 |

今号では3月に発生した東日本大震災について特集しました。  
地震活動が活発化しているといわれている中、いつ、どこで起き  
るか分からない“大災害”、今回のリポートから高齢者福祉事業従事  
者としての備えと支援について考えていただければと思います。

平成24年度 介護報酬改定に向けて  
本会の要望・提言

去る11月8日(火)、正副会長、顧問及び本会介護保険  
推進委員が上京し平成24年度介護報酬改定に向けての  
要望・提言を厚生労働大臣等に行いました。

要望・提言の内容については「かけはし79号号外」を  
ご覧ください。

## 県老協加入施設数

平成23.11.30現在

		特 養	養 護	軽 費	ケア ハウス	デイ サービス	計
正 会 員	阪 神	43	4	2	0	9	58
	東播磨	41	6	1	4	9	61
	姫 路	27	3	0	0	2	32
	西播磨	30	6	0	0	13	49
	但 馬	20	1	0	0	9	30
	丹 波	9	4	0	1	4	18
	淡 路	12	3	0	0	2	17
	計	182	27	3	5	48	265

※ 賛助会員 1事業所(内訳:団体)

※ 平成20年4月より本会の会員の在り方が変更しております

※本機関誌に掲載の写真についてはご本人から承諾の上使用しています。